

ディスコグラフィー収録

ディスコグラフィー【2018No.105】(HP 掲載)

分類：LP

作曲家：J.S.Bach

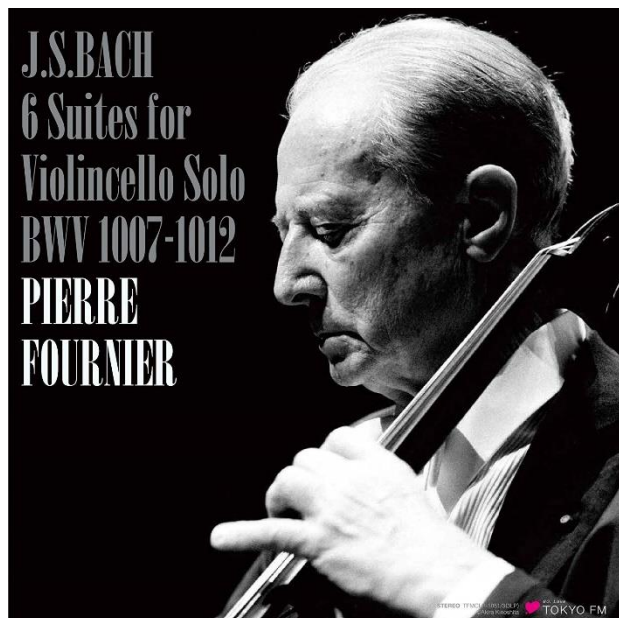
曲名：無伴奏チェロ組曲

演奏：ピエール・フルニエ

発売：TOKYO FM

No.：TFMCLP-1051/3

概要：



発売元の内容紹介を以下に引用します。

「名演の誉れ高いバッハ無伴奏の東京ライブをLPで！

フルニエのリアルな音が真摯な気迫と品格でせまる

[商品番号：TFMCLP-1051/3] [3LP] [国内プレス] [Limited Edition] [STEREO] [Live Recording] [日本語帯・解説付] [TOKYO FM]

[収録内容]

1. J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲 第1番 ト長調 BWV1007 [LP1-A]
2. J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲 第5番 ハ短調 BWV1011 [LP1-B]
3. J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲 第3番 ハ長調 BWV1009 [LP2-A]
4. J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲 第4番 変ホ長調 BWV1010 [LP2-B]
5. J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲 第2番 ニ短調 BWV1008 [LP3-A]
6. J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲 第6番 ニ長調 BWV1012 [LP3-B]

ピエール・フルニエ (チェロ)

録音: 1972年3月2日 [BWV1007/BWV1011/BWV1009] | 1972年3月4日

[BWV1010/BWV1008/BWV1012] / 東京、虎ノ門ホールでのライブ (ステレオ)

★ ご好評につき品薄状態が続いていたフルニエの東京ライブ

LP(TFMCLP-1011/ASIN: B00M6N9GUE)がジャケットを替えて再発売されます。伝説的名演を取めた貴重音源をこの機会にぜひ。

★ 「音楽を愛する、とりわけ私の父のことを知らない世代の皆さん。当ライブ録音は、クラシックの美と、沸き起こる興奮を結び合わせ、情感、力感、構成力の真髓がつまっています。そして日本の皆様はこの素晴らしい演奏家を記憶にとどめることでしょう。父、ピエール・フルニエを。彼は1954年に初めて日本を訪れ、その後も日本のファンをいつも身近に感じていたのです。父の誠実さ、気高さ、勇気は好評を博したこの東京公演で永遠となりました。激しさと美しさをあわせもつ父のサウンドを、見事に復元したこのディスクに喜びを感じます」 ~ (ジャン・フォンダ・フルニエ)

アーティストについて

= ピエール・フルニエ =

1906年6月24日、パリ生まれ。父は軍人、コルシカ島総督、母はピアニスト。母の手ほどきによりピアニストを志したが、小児マヒのため右足が不自由になったことから、9歳でチェロに転向。パリ音楽院に学び、1924年、18歳でデビュー。1930年代には独奏者として名声を確立、ドイツでも高く評価された。第2次世界大戦中にはパリにとどまって、母校で指導にあたる。戦後は演奏会だけでなく、各社のレコードにおいても人気を獲得、アメリカ、ロシアなど、国境を越えて活躍した。1970年にはパリからジュネーヴに居を移し、以後はここを本拠とした。1986年1月8日同地で死去。最後の来日は1981年。」

[My Sonic Signature Gold の導入\(2\)](#)では、次のような盤を聴いていますが、この盤はその後に購入したものです。

CALIOPE VIC 2186-2188 無伴奏チェロ組曲全曲 アンドレ・ナバラ

PHILIPS PC-1571~1572 無伴奏チェロ組曲全曲 モーリス・ジャンドロン

VICTOR VIC-4006~4007 無伴奏チェロ組曲全曲 ダニエル・シャフラン

東芝 EMI GR2018 無伴奏チェロ組曲全曲 (第3集・5番・6番)

パブロ・カザルス

5度目の来日時の虎ノ門ホールでのライブ録音であり、ライブの雰囲気の色濃く漂ってきます。

フルニエの演奏は、カザルス、シュタルケルとともに無伴奏チェロ組曲の三大名演奏と言われますが、哲学的なカザルス、豪壮なシュタルケルに比べ、エスプリの効いた香り立つような優雅な演奏です。

ホールがかなりデッドな感じで、響きはそれほど豊かではありませんが、それだけにチェロの直接音が捉えられ、ボウイングの様子などがしっかり伝わってきます。

以上